

教員名	いしはら つねひろ 石原 庸博	所属学科	経済学科
<p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>計量経済学，経済統計，統計的データ分析，ベイズ統計学などについて学ぶことができます。目的に即したデータ分析ができるようになることを目指します。</p>			
<p>【どのように学ぶのか】</p> <p>2年生:数学(微積分，線形代数)の問題演習と統計学の教科書の輪読を行います。 3年生:計量経済学，経済統計，計量ファイナンス，ベイズ統計，数理統計学，因果推論，政策評価法，多変量解析，時空間統計，極値統計，標本調査法，機械学習などの教科書から，参加者の関心にあわせて1~2冊輪読します。また，その統計解析ソフト(プログラム言語)R(又はPythonやJulia等)での分析方法を勉強します。 4年生:卒業研究・卒業論文の執筆を行います。 ※ 輪読とは，順番を決めてゼミ生が本の内容を発表していく形の事です。</p> <p>課外活動として，学生の皆さんの関心により，自主的に取り組める場合は他大学のゼミとのインカレゼミや企業・工場見学，統計検定等の関連する資格のための勉強のサブゼミなどを行ないます。</p>			
<p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p>上に挙げた分野はどれもデータ分析やデータの扱い方に関する分野です。いくつかの教科書を自分で読み，自分でRなどを使って分析し，研究内容を文書(卒業論文)にまとめる経験が得られます。将来仕事でデータを扱うにあたり，その経験は役に立ちます。また，教科書の輪読ではしっかり教科書の行間まで埋める作業を行うため，将来データ分析の書籍を自分で読めるようになります。また，資料収集，資料の理解，仮説の設定，データの収集・分析，発表資料作成，発表，グループでのディスカッションというゼミでの一連の流れを経験することは，将来様々な場面で生きると思います。</p> <p>また，関連する資格試験として統計検定(統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験)で問われるような内容の知識が得られます。</p>			
<p>【おすすめの入門書・基本テキスト】</p> <p>入門書 西内 啓(2013)『統計学が最強の学問である』のシリーズ 高橋信(2004)『マンガでわかる統計学』オーム社 のシリーズ</p>			

伊藤公一朗(2017)『データ分析の力 因果関係に迫る思考法(光文社新書)』,光文社
木田 浩理他(2020)『データ分析人材になる。 目指すは「ビジネストランスレータ
ー」』日経BP

基本テキスト

高校

本学の統計学I, II, 計量経済学I, IIの統計学・データ分析入門の科目で採用されてい
る教科書・参考書

【まだ見ぬ君へのメッセージ】

大学の4年間は自分で勉強する科目, 所属ゼミ・サークル, 学外の活動などを決めて
生活します。4年間は短いですが無理せず楽しんでください。